

●エレクトロラックス：新型コロナウイルス問題に伴い「株主配当案」見直しを提案

スウェーデン家庭電機最大手エレクトロラックス（本社：ストックホルム）は3月23日付の[声明](#)で、新型コロナウイルス問題が同社の2020年度決算に深刻な財務上の影響を及ぼすとの見解を明らかにし、次期年次総会に向けた株主配当提案を撤回すると発表した。同社は新型コロナウイルス問題について財務的影響を緩和する措置を実施したとしているが、ここ数日間で複数の当局が産業活動、小売り、越境輸送の禁止を含む厳格な対策を講じたことに伴い、需要および生産可能性の急減が生じていることから、配当提案の撤回を決定したとしている。

●エアバス：新型コロナウイルス問題対策で、財務体質強化策を公表

欧州航空機最大手エアバスは3月23日付の[声明](#)で、新型コロナウイルス問題への対策として、同社の財務弾力性を確保するため、次期年次総会に提案予定だった14億ユーロ相当の株主配当案（1株当たり1.80ユーロ）の撤回を表明。30億ユーロ相当の回転信用枠に加えて新たな150億ユーロ相当の信用枠の確保、任意の年金基金上積みの停止などの措置にも踏み切る方針を打ち出し、取締役会で承認を得た。

なお、エアバスは新型コロナウイルス問題に伴い、生産ライン停止に踏み切ったが、作業者の健康・安全検査を行った上で、[3月23日からフランス、スペインの一部生産ラインを再開すると発表](#)（3月22日付）している。

●ボッシュ：新型コロナウイルス問題に伴うドイツにおける事業再編計画を発表

ドイツ自動車部品・工具大手ボッシュは3月20日付の[声明](#)で、新型コロナウイルス問題に伴う欧州自動車産業の稼働停止、需要急減を踏まえて、ドイツ国内の自動車関連35拠点や管理部門などで生産調整や勤務時間短縮などの措置を次のとおり進める方針を示した。既に労使協議会と合意しており、3月25日から開始する（一部地域では23日から）。措置は2段階で実施、第1段階として従業員に累積残業時間相殺による労働時間調整、休暇取得を要請、第2段階として遅くとも4月5日までに時間短縮勤務計画を導入する。

ただし、中国市場の段階的な回復なども考慮し、一部の生産・エンジニアリング事業は継続する。また、ドイツ以外の欧州地域でも自動車需要の低迷は顕著であることから、他の欧州地域においても同様の対策を顧客および従業員代表と協議している。

●アトラスコプコ：新型コロナウイルス問題に伴うベルギーにおける事業再編計画を発表
スウェーデン産業機械大手アトラスコプコ（本社：ストックホルム）は3月20日付の[声明](#)で、新型コロナウイルス問題に伴うベルギー政府の指示に従い、アントワープの生産拠点の一部機能を停止、3月23日～4月2日まで、総従業員1,400人のうち、900人を一時解雇すると発表した。アントワープ事業所は同社グループ最大の工業用コンプレッサ生産拠点。なお、機能を停止するのは最終組み立てラインで、コンプレッサ部品の生産ラインや配送拠点は50%操業を続けるという。医療機関や水処理施設、医薬品・食品の生産企業の操業維持のため、コンプレッサ保守部品の供給継続を担保するためだ。

●ケリング・グループ：2020年第1四半期の減収見通し示す

「グッチ」「サンローラン」などのブランドを傘下に置くフランスの[ケリング](#)・グループは3月20日付の[声明](#)で、新型コロナウイルス問題を踏まえた2020年第1四半期（1～3月）連結決算見通しを明らかにし、売上高が前年同期比で13～14%減少するとの予測を公表した。中国本土は回復の兆候が確認されたとしたが、アジア大洋州地域では依然として新型コロナウイルス問題の影響は顕著で、欧州、北米市場でも事態は急速に悪化していると分析。2020年上半期の営業利益率は減少傾向にあるが、定量的予測を行うには時期尚早だとした。なお、同グループは3月22日付の[声明](#)で、新型コロナウイルス問題の中、供給不足が深刻化するマスクの供給態勢を整える方針などを明らかにしている。同グループ傘下の「バレンシアガ」「サンローラン」の生産拠点が保健・衛生当局の許可を得てマスク生産に着手するほか、中国から調達した300万枚の医療用マスクをフランスの医療機関に供給するとしている。